

昭和興産

昭和興産は海外ビジネスの拡大を基軸とした成長戦略を推進している。海外3拠点のうち、とりわけタイの現地法人が順調で、最近では現地でOEM関連のビジネスにも力を入れ始めた。2013年度(12月期)からは次期中期経営計画を始動し、「伸びる海外で増やす意識を高める」(沢瀉一雄社長)考え。

昭和興産は現在推進中の中期経営計画のなかで

「日本とアジアで活躍できる企業へ向けて事業基盤を強化すること」を基

本方針に掲げ、海外での事業基盤強化に取り組んできた。現在、タイ(パ

ンコク)、上海、香港の3現地法人をベースに事業を展開している。中長期目標として海外での売上高を現在の30億円強から

50億円に引き上げる目標を設定している。3拠点のうち最近とくに堅調なのが昭和興産タイランド。有機・無機薬品、樹脂、電子材料、食品原料などを日本のほか、中国、ASEANなどから輸入し、タイ国内で販売することを主な業務とする。これまで自動

車関連などを中心に実績を積み上げてきた。最近力を入れているOEM関連ビジネスは、日系企業にタイや周辺地域のOEM先を紹介する。

「昭和興産としては製造委託先での原料を扱わせよう」ともターゲットの1つとなる。今年末には日本人駐在員を1人増員する。一方、中国は1~9月の累計売上高がやや減少

するなど現状では苦戦状態にある。現地調達比率が高まる中で、これからはローカル品を探す機能が求められるという。香港については10年から日本人スタッフ1名が常駐し、華南地区の開拓に力を入れている。

タイでOEM紹介ビジネス